

6 諫早市の健康寿命

平成22年と比較すると健康寿命は延びていますが、平均寿命の伸びが上回り、介護を要する期間が長くなっています。健康寿命の伸びが平均寿命の伸びを上回るためには、疾病予防や介護予防に、より一層取り組むことが重要です。

		平成22年	平成27年
男性	健康寿命 (日常生活動作が自立している期間)	78.53年	80.04年
	介護を要する期間	↕ 1.11年	↕ 1.24年
	平均寿命	79.64年	81.28年

		平成22年	平成27年
女性	健康寿命 (日常生活動作が自立している期間)	83.74年	85.10年
	介護を要する期間	↕ 2.27年	↕ 2.61年
	平均寿命	86.01年	87.71年

「健康寿命の算定方法の指針」(健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果Ⅱに関する研究班 H24年9月)をもとに算定

【参考】健康寿命 ※日常生活動作が自立している期間の平均(介護保険情報から算定)

		国		県	
		平成22年	平成27年	平成22年	平成27年
男性	健康寿命	78.17	79.24	77.55	78.98
	平均寿命	79.64	80.79	78.89	80.47
女性	健康寿命	83.16	83.71	83.23	83.79
	平均寿命	86.39	87.05	86.33	86.92

健康寿命の算定について

- 健康寿命の算定にあたっては、人口と死亡数、介護保険の要介護2～5の認定者数をもとに「日常生活動作が自立している期間」の平均を算出しています。
- 健康日本21(第二次)においては、健康寿命の指標の一つである「日常生活に制限がない期間」の平均が健康寿命の延伸の目標として取り上げられています。人口と死亡数、国民生活基礎調査で「健康上の問題で日常生活に影響がある」との回答データから算出されますが、市町村では国民生活基礎調査からデータを得られないため上記の方法で算出しています。